

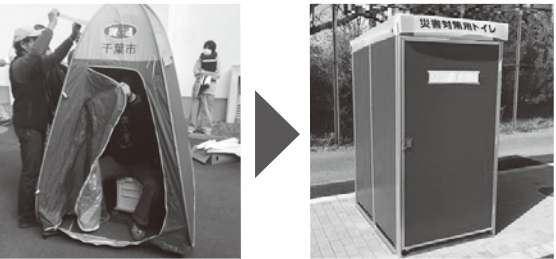
皆様の声の実現!

～あの質問・提案はどうなった?～

避難所マンホールトイレの環境が改善!

「マンホールトイレ」は避難所となる全小中学校に整備されましたが、これまで「女性は周囲が気になって使いづらい」「車いすの方はそもそも利用が難しい」などのご意見をいただき、改善を求めてきました。

新年度予算では、テント型に代わり、車いすの方も利用でき、プライバシーに配慮した組立パネル式の上屋が配備されることとなりました。今後も防災備蓄の充実に努めます。



犯罪を防げ!防犯対策強化!

全国各地で理不尽な犯罪が多発し、防犯対策の強化を求める声も多く寄せられています。

「犯罪を許さないまち」を公約として、継続的に防犯対策の充実に取り組んできましたが、2月補正予算では、地域への防犯カメラ設置補助事業も増額されました。

また、新年度予算ですべての学校への防犯カメラ設置が完了します。市民の安全を守るため、実効性ある防犯対策を今後も求めてまいります。



「動物愛護基金」を設置へ!

2月議会で、「千葉市動物愛護基金設置条例」が成立し、「千葉市動物愛護基金」が設置されることとなりました。平成26年9月議会以来、「動物愛護基金を設置して、動物愛護施策の充実に」と求めてきました。実に10年越しの実現となります。

今後、市民等からの寄付を受け入れるとともに、施策の充実・強化のために活用がはかられます。(4500万円が積み立てられました)



【野良猫への不妊去勢手術を進めましょう!】

市政へのご意見は…

携帯電話 090-3694-4173 TEL/FAX 043-255-8108

携帯電話か留守番電話にメッセージをお願いします! お手紙も大歓迎です!

ホームページ <http://www.kamei-takuma.com>

メール DQG06110@nifty.ne.jp

フェイスブック、ツイッターで、日々の活動を報告しています!

亀井たくま

で検索ください!



亀井たくま(45歳)、日々修行中です!!

1980(昭和55)年3月生まれ。中央区椿森出身・在住。

●作草部幼稚園 ●都賀小 ●椿森中 ●市立千葉高 ●早稲田大学政治経済学部 ●早稲田大学大学院公共経営研究科修了。2007年市議選で21票差で落選。2011年初当選。2023年、4期目当選(2期連続1位当選)。学生時代は吹奏楽部に所属。

地域での仕事 ●千葉市スポーツ推進委員 ●千葉市青少年相談員 ●院内小、椿森中地区各種団体役員 ●椿森3丁目・5丁目地区役員 ●第4地区(椿森中学校区・東千葉地区)町内自治会連絡協議会理事

資格 ●行政書士 ●社会福祉士 ●精神保健福祉士 ●愛玩動物飼養管理士 ●防災士 ●ホームヘルパー2級 ●社会保険労務士 ●宅地建物取引士

議会での仕事 ●市監査委員 ●都市建設委員会委員 ●市議会運営委員 ●市議会広報委員

趣味 ●明治～昭和の懐メロ。童謡・唱歌。 ●NPO東海林太郎顕彰会理事(本部・秋田市) ●好きな歌手は灰田勝彦、東海林太郎、三浦洸一。(地域で演奏・茶話会のボランティアしています)

市民の皆様と一緒にクリーン・あたたかな市政をめざします!

ワンコインカンパ(1口500円・複数口大歓迎!)にご協力ください。

郵便振替口座 00190-7-456984 亀井たくまと亀の歩みの会



最後までお読みいただきまして、ありがとうございました!

ひとりひとりを大切にする千葉市政を!

千葉市議会議員(120%市民派!無所属)

議会報告
61号

亀井たくま ニュース

発行 亀井 琢磨 2025年春の便り号

自宅 〒260-0042 千葉市中央区椿森3-13-8 携帯 090-3694-4173

事務所 〒260-0042 千葉市中央区椿森5-4-5 TEL/FAX 043-255-8108

ホームページは [亀井たくま](#) で検索をお願いします! メール DQG06110@nifty.ne.jp

新年度予算が成立! 神谷市政2期目へ! 市民生活・くらしを守る市政へ今後も協働!

皆様、いつもお世話になっております!重ねて市政へのご理解・ご協力に心から感謝申し上げます。

さきの2月定例市議会では、皆様の大切な税金の使い方・使い道を決める令和7年度予算について、慎重なる審議を行いました。また、3月には市長選挙が行われ、神谷俊一市長が再選を果たしました。私たち市議会議員も4年間の任期の折り返しを迎え、節目の重みをしっかりと噛み締めて、日々の活動に取り組む決意です。

今後どうぞ叱咤のほど、よろしくお願い申し上げます。



神谷市長が大差で再選! ~今後も市長(行政)と議員(議会)は切磋琢磨で~



3月16日に行われた市長選挙では、街頭などで市政へのご意見も多く頂戴しました。

神谷市政2期目がスタートしますが、今後も二元代表の理念のもと、行政と議会は市民の生活・くらしを良くしていくために互いに競争していく「切磋琢磨」の関係でなくてはならないと考えています。

私たち議会も研鑽に努めてまいります。

4月より、带状疱疹の予防接種が始まります!

●高齢者を対象(対象者約59,000人/①年度中に65歳を迎える人、②70歳以上は、70、75、80、85、90歳・になる方など)

●市内協力医療機関での接種(予約制)

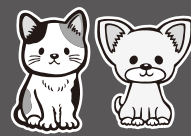
●自己負担額

- ・「生ワクチン(1回接種)」4,000円
- ・「不活化ワクチン(2回接種)」10,000円×2回。

※ワクチン代の半額が自己負担となります。(免除・一部免除もあり)詳しくは今後の市のお知らせをご参照ください。



新・動物愛護センター、地元・高品地区に建設へ!



亀井が長らく求めてきた新・動物愛護センターの設置については、このほど、地元の高品町(高品運動広場脇)を建設候補予定地に選定し、地元説明も始まりました。

新しいセンターは、殺処分ゼロを継続し、不幸な境遇の小さな命を1匹でも減らすことができる施設となるよう、今後も充実を目指します。

地元の皆様のご理解ご協力もよろしくお願い申し上げます。



【市内で捨てられていた小さな命です】

各種事業の詳細については、市政だより・市ホームページをご参照ください!

皆様からの声をひとつひとつ市政へ！(会派代表質問より)

子育て支援について



Q 妊娠・出産・育児の切れ目ない支援を。

A 妊娠前から出産・育児までの切れ目ない支援として、母子健康包括支援センターによる相談支援や産後ケア事業、「出産・子育て応援プラン給付金」による経済的支援など、充実を図ってきた。乳幼児の健康診査については、法定の1歳6か月児健診、3歳児健診に加え、4か月児健診を行い、1歳までの乳児期の健診費用を助成している。今後、生後間もない時期の支援をさらに充実させるため、令和7年度から、新たに「1か月児」の健康診査費用の助成を開始する。産後ケアについては、6年度から1歳未満への訪問型支援開始などの拡充を図ってきたが、今後もニーズや希望を踏まえ、より使いやすい制度となるように取り組む。



こどもを産み育てるのに不安のない社会となるように、経済的支援、精神的支援を引き続き充実させてもらいたい。また、障がいや病気のあるお子さん・家庭への支援、多子世帯への各種支援策など、さまざまな家庭へのきめ細かい支援もお願いしたい。

不登校のこどもたちへの支援について

Q さらに取り組みの推進は。

A 「誰ひとり取り残さない教育」の実現に向けて、未然防止・早期発見に加え、不登校の児童生徒が安心できる居場所の拡充や相談体制の充実として、ステップルームティーチャールの配置、全6区のライトポートに小学生専用の教室開設などに取り組んできた。今後、ギガタブの活用を通して、こどもたちの心のサインを早期に捉え、未然防止を推進する。また、旧高洲二中跡地の利活用として、「教育センター」を移設し、「学びの多様化学校」(不登校生徒の学びを保障し、社会的自立を目指す)を設置する。さらに、多様な学びの場の充実、保護者支援のため、ステップルームティーチャールの増員、各種カウンセラーの増員も図っていく。



不登校に悩むこどもたちが全国的に増加し、本市でも過去最多(小中学校で2142名/令和5年度)となるなかで、こどもたちに直接寄り添って支援を行うさまざまな専門職の増員など、支援体制の強化を歓迎したい。こどもたちが将来へ希望を抱き、社会的に自立できるようにサポートをお願いしたい。

くらし・福祉の相談支援について



Q 「福祉まるごとサポートセンター」を強化し、市民相談への対応を。

A 令和5年10月に「福祉まるごとサポートセンター」を開設し、1年間で6000件の相談が寄せられ、対応にあたってきた。8050問題をはじめ、どこに相談していいかわからない相談など、他の福祉の相談窓口と協働して、相談者や家族に寄り添う支援を実践しているが、相談件数も増加していることから、新年度から相談員を2名増員して、市民からの相談に対応できるよう体制を強化する。8050問題やいわゆる「ごみ屋敷」問題などの相談、困難事例も多くあることから、円滑に支援できるように、関係機関の連携強化に努めていく。



高齢化・孤独化に関連した相談や地域課題も急増しており、地域では対応できないケースも多く存在している。市民・地域からのさまざまな悩みや相談に的確に応えられるように、相談・支援体制強化を図り、市民の困りごとに寄り添ってもらいたい。

福祉に関する悩み事は、まず相談を！

「千葉市福祉まるごとサポートセンター」

☎043-306-7125 (中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階)

新・東部児童相談所等の整備について

Q 末広3丁目の新たな施設の検討状況は。

A 「東部児童相談所」「養護教育センター」「こども発達相談室」「発達障害者支援センター」を移転集約するとともに、「子育てリラックス館」の機能、大型遊具や屋内遊技場を備えた「(仮称)子育てひろば」等を整備し、地域の方も自由に集える場としての施設も目指していく。複数の相談機関が集まることで、連携強化を果たすとともに、市民が相談しやすく、気軽に訪れやすい施設としたい。また、児童相談所に併設される「一時保護所」については、一時保護されるこどもたちが増加していることから、定員数を工夫するとともに、居室の個室化など、一時入所したこどもたちの生活環境の改善を進めていく。



福祉に関するさまざまな施設を集約することで機能強化が図られるとともに、児童相談所は2か所体制になることから、迅速な対応が期待される。地域住民や子育て世代が気軽に利用できる施設にもしてもらいたい。

お墓の問題について



Q 合葬墓、樹木葬墓地の後は。

A 合葬式墓地は、長期的な安定供給という観点に加え、「既に焼骨をお持ちの方」「単身高齢者」等への墓地供給を優先するとの考え方に基づき、墓地供給を行っている。一方、家族のあり方が変化しているなかで、市内に長くお住まいになっていた方が亡くなった場合や、生前申込みの抽選倍率が高いことなどの課題があることは認識している。今後、合葬式墓地に対する市民のニーズに応えることができるよう、樹木葬墓地の整備を着実に進めるとともに、他市の事例を調査し、本市での導入の可能性を検討していく。



昨年末より、身近な方や御世話になった方が相次いで亡くなり、着実に「多死社会」を迎えていることを痛感している。昨今、終活をはじめ、火葬やお墓に関する相談をいただくことも増えており、現在の市斎場(葬儀場)のあり方や墓地の安定的供給は今後も急務である。市民が老後を憂いなく過ごすことができるように、対応を求める。

「予算審査委員会」でも質問・提言!!(都市建設委員会)

路線バス減便・廃止問題について

Q 路線バス廃止・減便対策の今後は。

A 市内の路線バスは、昨年度末(約8810便)であったが、昨年12月(約7950便)となり、約860便(9.7%)の減便となっている。令和2年度からの「運転手養成支援」(免許取得支援)により、15社28名の養成に繋がっている。6年度からは支援の拡充を行うとともに、7年度からは市交通政策課に「バス対策担当課長」を配置し、バス事業者等との連携強化など、対応にあたっていく。



路線維持のための各種支援策に取り組み、効果は出ていることは確認できたが、それ以上に減便・廃止が進んでいる現状がある。交通不便地域にとっては死活問題であることから、より一層対策に力を入れてもらいたい。

地域の道路整備について

Q 「本町星久喜町線」整備の進捗は。

A 計画は全体で2.5キロであり、大学病院前の区間(1.5キロ)は事業がほぼ完了している。残る亥鼻地区の「病院坂区間」(大和橋～千葉大病院坂下、320メートル)は用地取得率23%、星久喜町地区(青葉病院先～星久喜小下交差点、650メートル)は用地取得率10%となっており、引き続き、地域住民の理解を得ながら用地取得に努めていく。



大学病院前の通りは道路拡幅により、安心して通行できるようになり、近隣住民も喜んでいる。残る部分については、地元の理解を丁寧に得ながら、進めていきたい。

地域の諸問題について

Q 道路の雑草対策・草刈り要望への対応は。

A これまで、交通量が多い箇所や住民からの要望箇所について、コンクリート化や防草シートによる対策を試験的に行ってきたが、令和7年度からは、事業の拡充を図り、中央分離帯や交通量の多い交差点などで対策を実施していく。これにより、草刈り費用の削減、地域住民からの要望への対応が進むと考えている。



これまで地元有志で草刈りに取り組んできた中央分離帯でもコンクリート舗装が実施されたことに感謝申し上げたい。草刈り費用も高騰していることから、今後も市民や地域からの要望を踏まえながら対応に努めていただきたい。



【地域住民で草刈り作業を行ってきた箇所も順次改善!】(椿森・国道126号線)

公園のリニューアル事業について

Q 千葉公園、中央公園・通町公園の今後の整備は。

A 千葉公園は、「やすらぎゾーン」を設計しており、7年度から工事を予定している。その後、中央図書館と公園を繋ぐための公園拡張、綿打池周辺ゾーンの整備、遊具ゾーンの整備を順次進めていく方針である。中央公園・通町公園の連結事業については、進捗率(用地取得率)は36%となっている。地域の賑わい創出のためのイベントの実施、売店・キッチンカーの出店などを実施しており、今後も取り組みを進める。



それぞれ多額の費用をかけて実施する事業であることから、随時、説明責任を果たすとともに、地元意見や市民の声を丁寧に受け止めながら、取り組みを進めてもらいたい。

生活インフラの安心・安全について

Q 八潮市での道路陥没事故を受けて、下水道の対応強化は。

A 事故直後に緊急点検として、口径2000mm以上の汚水幹線(約9キロ)と、改築工事を予定していた管路(177か所)を対象にカメラや目視による点検、路面の巡視点検を行い、すべて異常のないことを確認した。下水道を要因とした道路陥没は令和5年度に小規模なものも含めて28件起きているが、下水道本管を原因としたものは4件であった。今後も老朽化対策(令和7年度は5.8キロ)と地震対策(令和7年度東千葉・轟町など4.2キロ)を進めていく。



八潮市の事故直後に、緊急点検を実施し、市民へ安全を周知したことを評価する。老朽化対策と耐震化も鋭意進んでいるが、万一の災害や事故に備え、今後も対策推進に期待する。